

書評

こどもの整形外科疾患の診かた―診断・治療から患者家族への説明まで

亀ヶ谷真琴●編

西須 孝●編集協力

〔評者〕金 郁喆(京府医大大学院准教授・運動器機能再生外科学)

亀ヶ谷真琴先生が編集された『こどもの整形外科疾患の診かた―診断・治療から患者家族への説明まで』は、その制作段階で既に仲間うちで『亀ジャン』と呼ばれていた。この愛称は世界的に有名な小児整形外科の成書『Tachdjian(タヒジャン)』をもじったものである。今日まで日本では小児整形外科疾患を単独に扱った書籍は少なく、多くは整形外科体系の一部門として記載されているにすぎない。そのため、一般整形外科医を対象とした小児整形外科疾患の解説書は少ない。

今日、Evidence Based Medicine(EBM)を基に診療ガイドラインを作成することが推奨され、その方向に小児整形外科も進んでいるが、残念ながら疾患の性格上、成績評価には長期間を要するため、高いエビデンスを持った診断・治療指針はまだみられない。本書は小児整形外科医が日常診療で出会う40の小児整形外科疾患について、遭遇しやすい疾患ごとに、その病態、診断法、治療法の選択および治療時期をチャート形式で記載している。また、実例を挙げその疾患の診断上の留意点、

治療の解説、専門医へ紹介するタイミングなどを提示しているため、若い医師や一般整形外科医、開業医にも有用な書籍である。さらに疾患の病態、治療法、予後に関してQ&A形式で記載されている点も明快である。

本書は亀ヶ谷先生の長年の経験と、国内外の多くの知見を基に、患者や家族とともに悩んできた個々の疾患の問題点とその解決法を集大成したものであり、よく消化されている。どの疾患の治療法も決してラディカルではなく、患児の治癒能力を念頭に置いた治療法である点で評者も安心できる。運動器疾患を持った患児は悪性腫瘍などの重篤な疾患と異なり、長い生涯を生きなければならない。運動器の痛みや機能障害を持って一生を終えるのか、あるいは痛みや不自由さから解放されて、自由な生活を送ることができるのかは整形外科医の適切な診断と治療にかかっており、患児の将来を考えると責任は重大である。

あえて愛称で呼ばせていただくが、『亀ジャン』は小児整形外科を専門としている医師にとって診断と治療の指針の一つとなるであ



ろう。また、一般整形外科医や開業医にとっても、小児整形外科疾患の診断や治療に迷うときに、その指針となるだけでなく、専門医に紹介すべき時期をも提示している点で有用である。本書を通じて重篤な障害を残す子どもたちが一人でも少なくなることを期待している。

B5 頁264 2011年
定価9,450円(本体9,000円+税5%)

[ISBN978-4-260-01377-2]

医学書院 刊